

漢語動詞における格表示変化傾向の探索 —ヲ格とニ格—

An Exploratory Study of Changes in Case Marking with Sino-Japanese Verbs: Shifts between *o* and *ni*

服部匡(同志社女子大学表象文化学部)

Tadasu Hattori (Doshisha Women's College of Liberal Arts)

要旨

二字漢語動詞のうち、その意味的な項となるニ格とヲ格の成分が、大きく意味役割を換えることなく交替する例のあるものについて、主に 60 年間の国会会議録のデータを用い、格助詞の選択傾向の変化を探索した。先行研究で主張された一般傾向とは反対にヲ格からニ格への推移が見られる動詞が少なくとも 6 語あり、ニ格からヲ格への推移が見られる動詞などもある。

1. 目的と方法

下記のデータを用い、二字漢語動詞のうちニ格とヲ格に交替の余地があるものについて、格助詞の選択傾向の変化を探索的に研究する。

- ・ 1947～2007 年の国会会議録 約 35 億字
(国会図書館のサイトからダウンロードしたもの)
- より早い時期の用例を知るため一部の語では補助的なデータとして下記のものを用いる。
- ・ 1911～1944 年の新聞記事 約 0.5 億字
(神戸大学附属図書館『新聞記事文庫』の 37,776 記事(2015.7.10 取得))
- ・ 青空文庫収録の作品¹ 約 1.5 億字
(ひまわり用『青空文庫』パッケージ(国語研究所 2015.4.2)に含まれる 12,279 作品)

2. 先行研究

コーパスに基いて漢語動詞の統語的性質の通時変化を扱った研究には永澤(2007)があるが、動詞の自他という観点からのものである。コーパスデータから漢語動詞でのニ格とヲ格の入れ替わりの傾向を探索した包括的な研究が従来なかった。

「～{ニ/ヲ} 怖づ」のように動詞の項に関してニ格とヲ格が交替する現象は古くから見られることで、また「背く、慣れる、祈る」など、現代語では主にニ格をとる動詞が古典語ではヲ格をとった例がある(「極める」のようにその逆の例もある。山田(1980)、信太(1981)、坂梨(1981)、小田(2010)などによる)。

現代日本語では、「触る、頼る、耐える、(宿{に/を})当たる」などでニ格とヲ格が交替しうることを塚本(1991)が指摘している。影山・高橋(2011)は「触る、頼る」などで、「に」= 全体的・直接的な作用、「を」= 部分的・間接的な作用」という意味的な差異があるという。

漢語動詞については、丸山(2011)が「複数の格助詞を殆ど同じように使うことができるも

¹ 大部分は 1850 年代から 1910 年代までの生まれの著者によるものである(服部 2014)。

の」の例として「欠席する、信頼する、納得する」を挙げている。

通時変化に関しては、工藤(2012)が、漢語動詞の格支配で「(カラ/ニ/デ/ヲから)『を』一つに収斂する」という変化が進行中であると主張する。例えば「～ニ配慮する→～ヲ配慮する」、「(医院等) デ受診する→(医院等) ヲ受診する」、「(人) カラ聴取する→(人) ヲ聴取する」のような変化が進行中であるという。「受診する」「聴取する」については新聞記事データベースの用例数変化が根拠としてあげられている。

また、島田(2014)は近年の若年層でニ格から他の格への移行が見られるといい、漢語動詞の「言及する」「暴行する」、和語の「鑑みる」「心がける」などでニからヲへの移行が進んできているという。また、塩田(2006)はウェブでの質問調査に基づき「参拝する」という動詞で若年層ほどニよりヲを用いる傾向があると指摘している。

このように、個別の動詞の格表示変化の指摘やそれに基づいた一般的变化傾向の仮説提示は行われているが、潜在的にはニとヲが交替しうる動詞の全体の中でどれだけのものにもどのような方向の変化が起こっているのか、という観点からの定量的研究が不足していた。理想的にはニ格・ヲ格の例があるすべての動詞について均しくデータを分析する必要がある。今回は、形式的条件により網羅することが容易な二字漢語動詞を対象とする。

3. コーパスに見るニ/ヲの交替・変化

国会会議録(1947～2006)から、「{こ/を}+漢字二字+{する/致す(いたす)}」の部分抽出し、形式的に特定しうるゴミを排除した(動詞は諸活用形を含むが受身・使役は除く。格助詞と漢語が隣接するものに限る)。この段階でニ格とヲ格両方の用例があり両者合わせて100例に達する動詞の中で、意味的にヲ格とニ格が交替する余地がありそうな動詞を選び用例を精査・選別した。その結果、実際にヲ格とニ格が通時的または共時的に交替していると思われる動詞を以下に取り上げる。このような手順によるため、ヲとニの交替がある動詞の一部をまだ見落としている可能性がある。

1947年から20年ごとの3期間にわけ、ニとヲの比率、および合計の用例数²を示す。また、なるべく形式的・意味的に似た性質のニ格/ヲ格成分をとっている例を並べて示す。

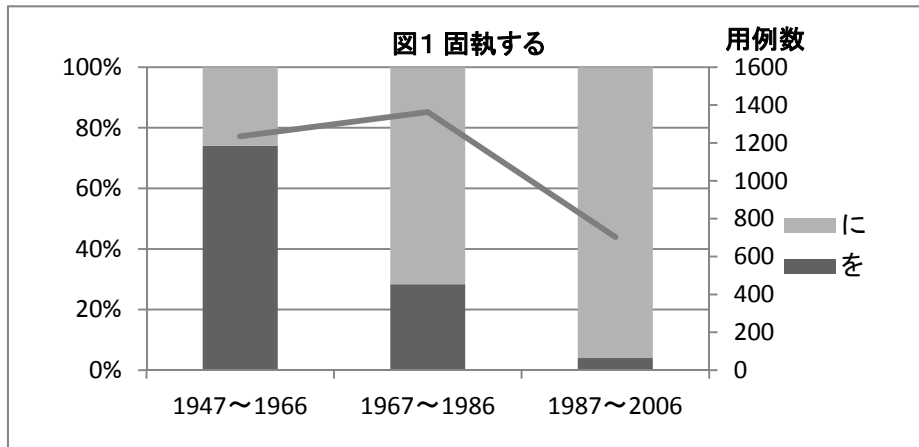
片方の助詞を伴う用例がわずかな数しかない動詞³、ヲとニ合わせての用例数が0に近い期間のあるものなどはとりあげない。

3.1. ニ格の比率が増大しているもの

「固執する、反撃する」の2語で特にニ格の増加傾向が顕著である。他にも、程度はともあれ、相対的にヲ格よりもニ格が優勢になる方向への推移の見られる動詞が4語存在する。以下にそれぞれ数値をグラフで示し観察する。

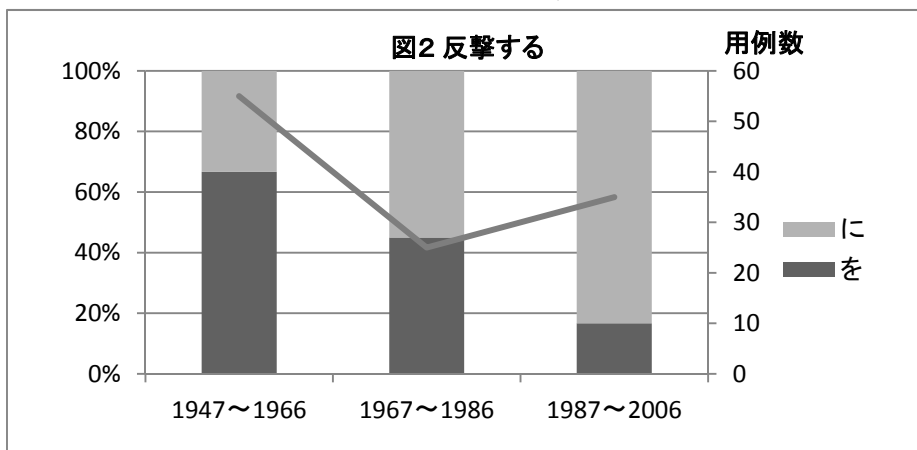
² 期間によって会議録の総文字数が異なるので、動詞の頻度変動の指標としてはこの数値は不適である。

³ 「楽観する、懸念する、考慮する」などではニ格の用例が、「賛成する」「反対する」などではヲ格の用例が(比率として)少数ある。



固執する

- (1) 国が国という立場で、国の訴訟代理という立場だけに固執するならば (佐々木静子,1974)
- (2) 一つ電電公社にも在来の方式だけを固執するようなことのないように、技術的な進歩というものに対してもう少し目を開いて、(田中角榮,1957)
- (3) 私はただいまの案でよろしいと思っておりますが、よりよき修正案がありますならば、あえて原案に固執するものではございません。(藤枝泉介,1967)
- (4) 提案者としてはあえて原案を固執するものでございません。(井手以誠,1955)
- (5) ひとりわが国のみが古典的な自由資本主義に固執し、やがて動脈硬化の経済体制に追いやろうとしております。(多賀谷委員,1961)
- (6) いたずらに経済理論に走り、資本主義を固執する吉田内閣の欠陥は、万人認めるところの民主不安定政策であります。(堤(ツ)委員,1953)



反撃する

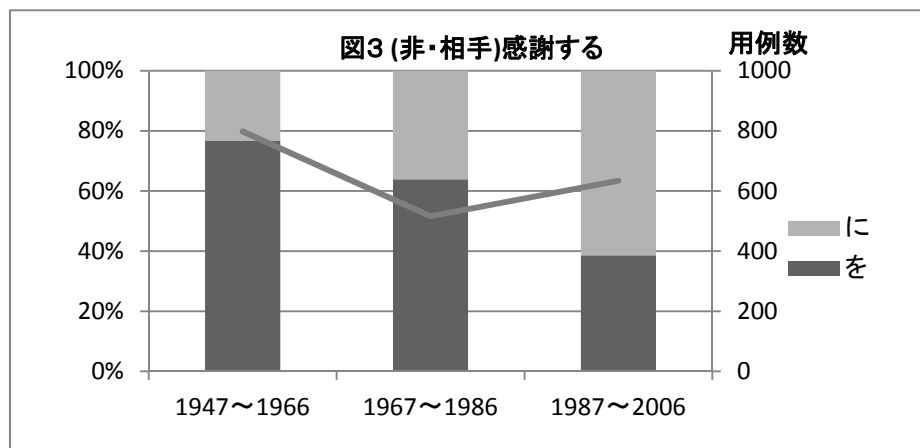
- (7) これは朝鮮戦争に派遣された大国中心の国連軍というのが、力によって北朝鮮からの攻撃に反撃するということを目的にして出された。(芹田健太郎(公述人),1992)
- (8) それに対するオレンジ軍の攻撃を反撃して、つまりエンタープライズを護衛する訓練をしたということになりますね。(上田耕一郎,1984)

(9) 保守政権のもとで、重税に苦しみぬいた国民層が政府に反撃した結果、しぶしぶ実施した国民世論の勝利であります。(平林剛,1957)

(10) われわれはこの点で大いに政府を反撃して選挙演説をやるのに都合がいい、この点はまことに感謝にたえないことです。(坂本昭,1957)

「感謝する」「反論する」「配慮する」でもヲ格からニ格への推移が観察されるが、これらの動詞では、格成分の意味役割への考慮が必要になる。

「感謝する」には、大別して、「{国民/アメリカ/英霊}に感謝する」のように<相手>の項を取るものと、「{協力/お答え/好意}に感謝する」のように<事柄>の項を取るものがある。<相手>では、ニ格の例はあるがヲ格の例がない。そこで、明確に<相手>の項とみなせる例を除いた場合(<相手>かどうか判定しにくい例も含む)の数値⁴をあげると次のようであり、ニ格の優勢化が見て取れる。



<事柄>感謝する

(11) それで私はもう時間がございませんから、委員長の御好意に感謝してこれで私の質問を終りたいと思います。(須藤五郎,1952)

(12) そこで、本問題について、貴国が従来示されたご好意を感謝すると共に、今後一層のご援助を得て (廣瀬小委員長,1957)

(13) コーエン長官からは、日本政府の協力に感謝するとともに、これらの措置が実施されることを期待しているという発言がございました。(渋谷政府参考人,2000)

(14) 総理から従来の協力を感謝するとともに、いまおっしゃったような証言の問題についても、一層のアメリカ側の協力を得られるよう (稲葉国務大臣,1976)

(15) 我が国に対する、また我が国の国民に対する皆様の御支援に感謝しております。(マイケル・トーマス・ソマレ(参考人),2006)

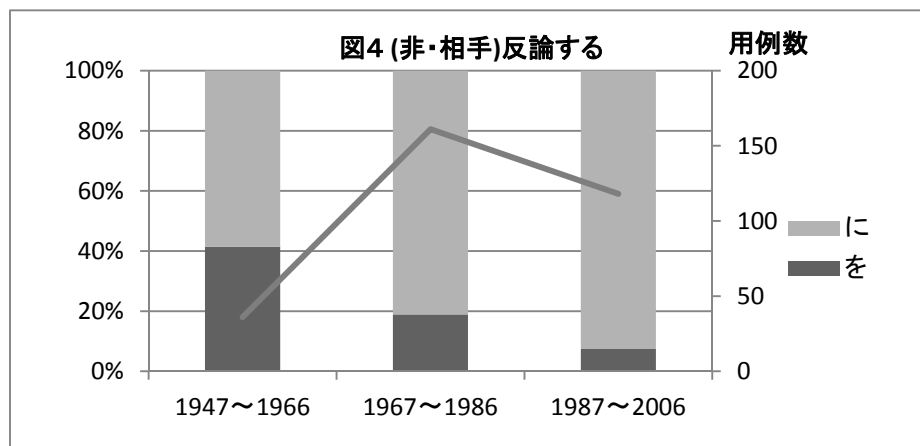
⁴ 「<相手>に<事柄>を感謝する」の形の例が2例ある。下記に示す。

(i) また総理は、昨日、我が党村議員からの戦犯の軍神扱いはやめよという立場から、合祀している戦犯に何を感謝するのかと問われたのに対して、まともに答えず、冷たい言葉をかける人は正常な人間心を持っているか甚だ疑問に思うと言われました。(安武洋子,1985)

(ii) 右報告を終るに当り、今回の出張に際し福岡県当局関係の労使双方及びスト規制法案の懇談会に出席された公益代表の各位に御協力を感謝する次第であります。(専門員(高戸義太郎),1953)

- (16) 数値目標は若干上回る形で達成させていただきまして、大変皆さんの御支援を感謝しております。(生田参考人,2005)

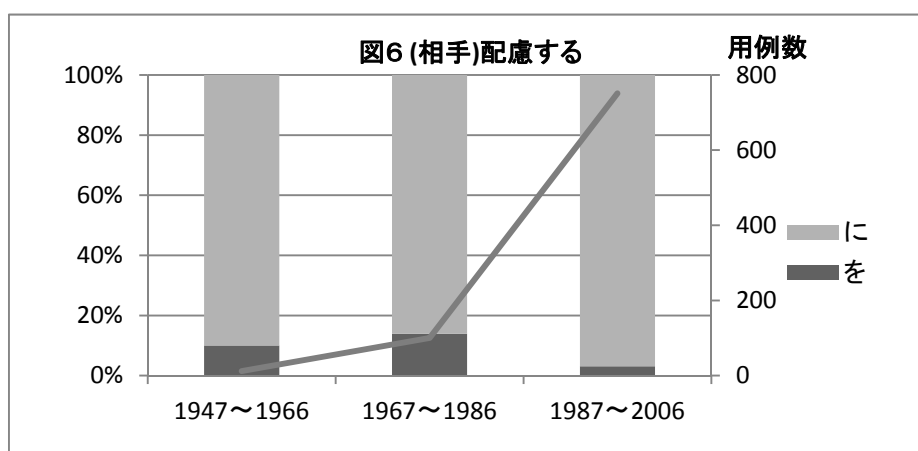
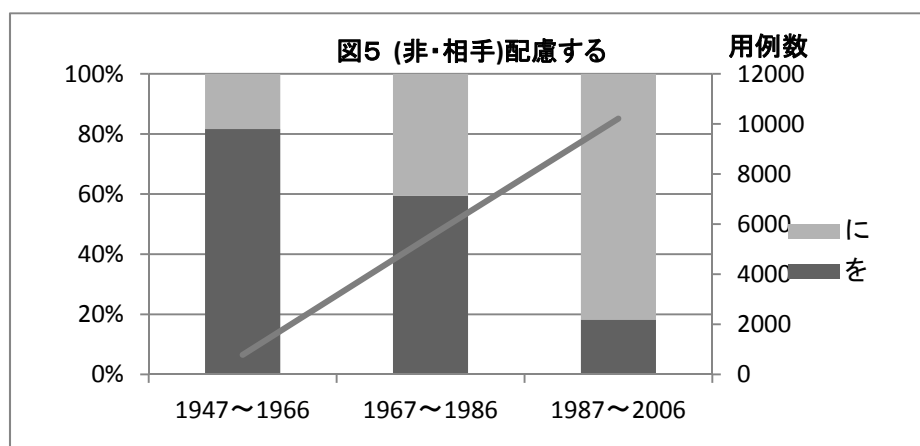
「反論する」でも「感謝する」と同様、<相手>の場合には二格の例しかない。そのため、明確に<相手>の項であるとみなせる例を除く。さらに、「ありのままを反論して～」「そうでないということを反論して～」「これだけ巨額でいいのかということを反論しようと思えばできます」のようにヲ格が<反論内容>であるものは二格と交替しないため、その明確な例は除く。その結果の数値を見ると、「感謝する」の場合と同じ傾向が認められる。



<事柄>反論する

- (17) このことに反論する一部の論拠といたしまして、サンフランシスコ条約における直接占領軍費に同資金が含まれていないこと、あるいは同条約の第十四条。(田中幾三郎,1962)
- (18) 視聴した結果、ほかの学者がほかの公開されておりますいろいろな機関でそのことを反論すること自身については、もちろん、これは学問的に自由でございますけれども、(宮地政府委員,1980)
- (19) 積極的な位置づけとして申し上げたわけではなくて、この提案理由の説明に反論するといえますか、(工藤公述人,1972)
- (20) これでは、国防会議自体において制服の説明を反論し、あるいはこれを補佐し、修正する実際の資料を作成することは不可能となり、(石橋政嗣,1956)

「配慮する」にも、「消費者に配慮する」のように<相手>の項を取るものと、「{趣旨/融資/プライバシー}に配慮する」のように<事柄>の項を取るものとある。「感謝する」「反論する」と異なるのは、「配慮する」では、<相手>の場合でも二格と並んでヲ格の例もあることである。そこで明確に<相手>の場合とそれ以外の場合に分けてそれぞれ数値を示すと次のようになる。どちらの場合にも長期的には二格が伸張しているが、<相手>の場合は<事柄>の場合に比べて早くから二格優勢であったことが分かる。ただ後者では初期の例がごく少ない。



<事柄>配慮する

- (21) プライバシーに配慮した運用のルールなどはどのようになされているか教えていただけますでしょうか。(福島瑞穂,2001)
- (22) 先ほど塩川証人は、血友病患者さんの独特のプライバシーなどを配慮して安部先生は出さなかったというふうにおっしゃいますけれども、(土肥委員,1996)
- (23) 私ども各金融機関に対しましては特に中小企業向けの融資に配慮するようという指導を加えておるのでございますが、(森永貞一郎(参考人),1975)
- (24) 十一億五千万円の融資を配慮しておられるというので、聞いておると非常に大変な心配をしておられるように聞えるのです。(兼岩傳一,1949)
- (25) 特別徴収となる年金の範囲については、公租公課禁止規定の趣旨等に配慮し、遺族年金、障害年金、老齢福祉年金は含まれてないというふうに言っているんですよ。(小池晃,2005)
- (26) 肥料工業の構造改善に当たっては、産業構造審議会の答申の趣旨を配慮しつつ、生産コストの低減が進められるよう指導すること。(竹内(猛)委員,1979)

<相手>配慮する

- (27) これらの利用者配慮しました、例えばエレベーターつきの横断歩道橋の設置に当たりましては、(藤田忠夫(説明員),1990)

(28) 二番、敷地内及び館内における誘導ブロックの設置や車いす利用者を配慮した動線の整備。(小川榮一(参考人),2006)

下記の数値も合わせて考えると、工藤(2012)が「～を配慮する」を格支配の変化により近年生じた言い方であるとするのは疑わしい。新聞記事と青空文庫でのヲ格の早い用例をあげておく。ただし新聞でのニ格の1例は1914年と早く、それ以前の状況は不明である(『国民之共』32号、1888年、に「～を配慮する」の例がある)。

「青空文庫」の用例数(すべて非・相手)

ニ配慮する 0 ヲ配慮する 1

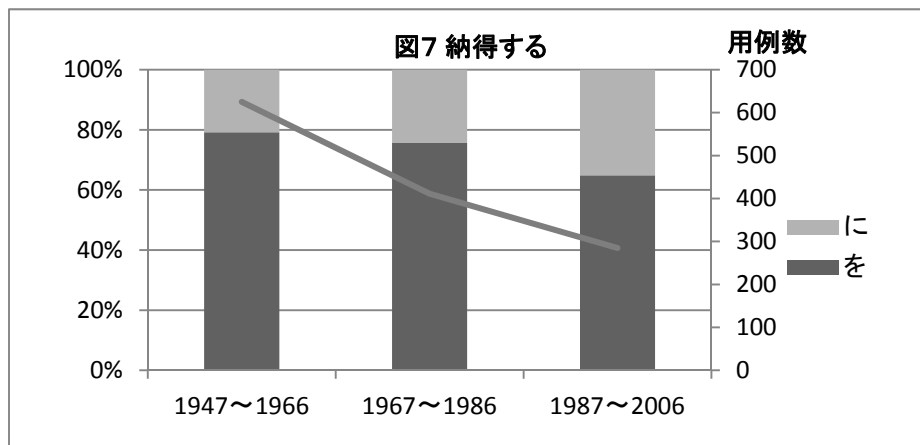
「新聞記事文庫(1911～1944)」の用例数(すべて非・相手)

ニ配慮する 1 ヲ配慮する 4

(29) 会社は自利一点張の為に彼等坑夫の保健並に生活状態を配慮するの違あらず(台湾日日新報 1920.3.13-25)

(30) 甥の将来の安定を配慮するためにした冬の旅(ベートーヴェンの生涯 ロマン・ロラン 片山敏彦(1898～)訳 1944)

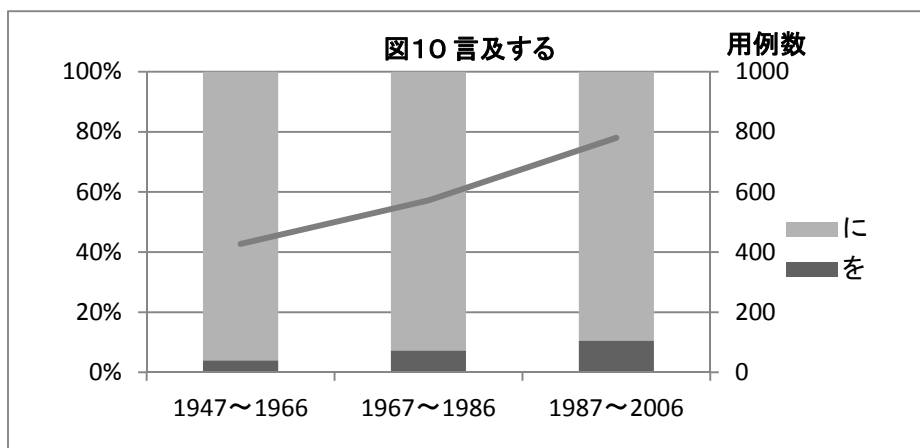
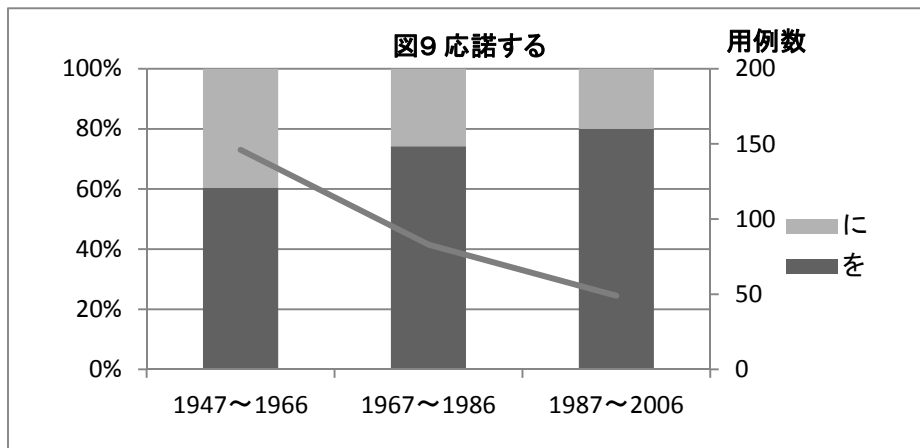
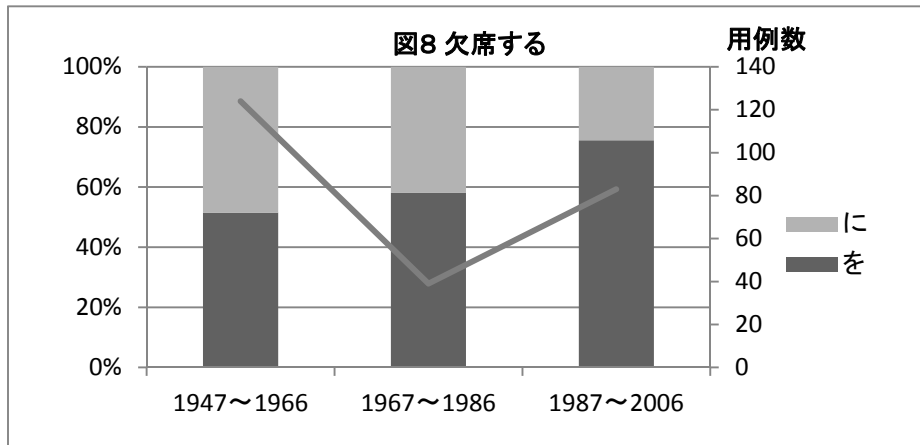
これらの語ほど明瞭ではないが、「納得する」でも若干ニ格の比率が増加している。「人を納得する」のような使役的な意味のものは、当然、用例数から除いた。



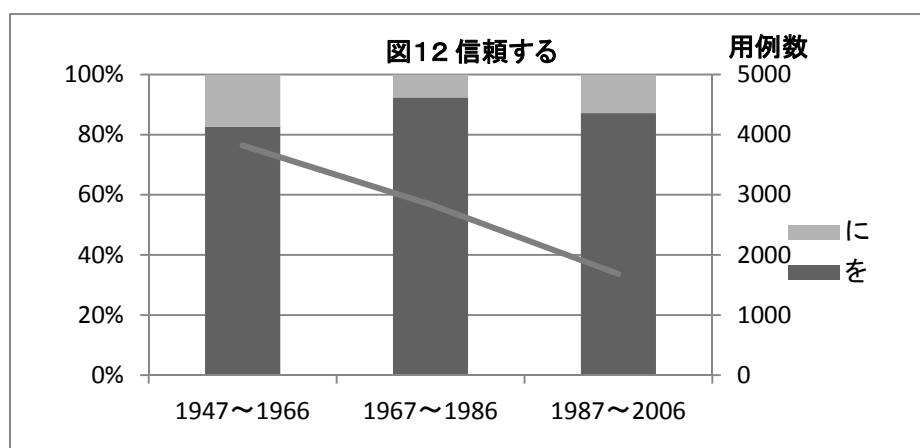
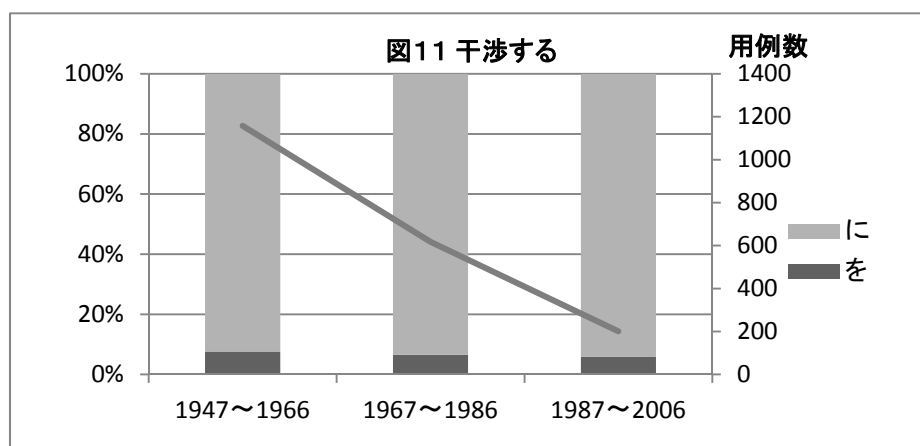
以上の6語でヲ格からニ格への推移傾向が観察された。その要因としては、語により、類義動詞の格表示の影響(例:「固執する」に対する「こだわる」「執着する」)、<相手>のニ格への類推などが考えられるが、説得的な説明はない。また、語によって、動詞の意味そのものの変化の可能性を検討する必要がある。これは今後の課題である。

3.2. ヲ格の比率が増大しているもの、その他

「欠席する」「応諾する」「言及する」ではヲ格の比率が上昇しているように見える。上昇したとすれば、類義動詞の格選択との関連(例:「欠席する」に対する「休む」)などが要因として考えられるが、やはり説得的な説明はない。紙数の都合で例は省略する



他に、ニ格とヲ格の比率に明確な変化傾向を見出しにくい語がいくつかある。以下に数値をあげる。グラフを省略するが「参拝する」も同様である。



「信頼する」では、憲法前文にある「(平和を愛する諸国民の)公正と信義に信頼(して)」の語句を含むものが413例あり、それらを除外した場合は1987-2006年の二格の比率がやや低くなる。「～に信頼する」は、(31)(32)のように、古くからある言い方であるが、下記の二つの数値を考え合わせると、長期的にはヲ格が勢力を伸ばしてきた可能性がある。

(31) 長が荏苒として愈えなかつたことと、榛軒が清川玄道の技倆に信頼してゐたことが知られる。(森鷗外(1862～) 伊沢蘭軒)

(32) 「無論なら安心して、僕に信頼したらよかろう。」(夏目漱石(1867～) 二百十日)

「新聞記事文庫(1911～1944)」の用例数

ニ信頼する 108 ヲ信頼する 61

「青空文庫」の用例数

ニ信頼する 111 ヲ信頼する 154

4. 結語

本研究では、二字漢語動詞における二格とヲ格の使用傾向の推移を調査検討した。相対的に、ヲ格よりも二格が優勢になる方向への推移を示す動詞が少なくとも6語あり、その反対方向の傾向を示す語も見られる。工藤(2012)のいうようなヲ格への収斂、あるいは島田(2014)のいうような二格の衰微といった一般化は、少なくとも過去の数十年単位での全般

的な変化傾向の記述としては、裏付けることができない。もっとも、今回扱ったよりも後の世代の話者、あるいは、国会会議録には現れにくいようなスタイルでは別の傾向が見られる可能性はある。

本論では動詞の意味用法の幅(ヲ・ニによる相違)やその変化の面は、十分な観察分析をなしていない。これらを含めた現象の総合的な記述は今後の課題である。

参考文献

- 小田勝(2010) 『古典文法詳説』 おうふう.
- 影山太郎・高橋勝忠(2011) 直接目的語と前置詞付き目的語 影山太郎(編) 『日英対照名詞の意味と構文』 119-147. 大修館書店.
- 工藤力男(2012) 『日本語に関する十二章 詫びる?詫びない?日本人』 和泉書院.
- 塩田雄大(2006) インターネットを用いた言語調査の一試論 公開型ウェブ調査の結果から 『NHK 放送文化研究所年報 2006』 93-122.
- 島田泰子(2014) 現代日本語における二格表現の衰微と交替 『二本松学舎大学論集』 57: 45-65.
- 信太知子(1981) 「～をそむく」から「～にそむく」へ 一動作の対象を示す格表示の交替— 『国語語彙史の研究 二』 和泉書院.
- 坂梨隆三(1982) 近代の文法Ⅱ(上方篇) 築島裕(編) 『講座国語史 第4巻 文法史』 大修館書店.
- 塚本秀樹(1991) 日本語における格助詞の交替現象について 『愛媛大学法文学部論集 文学科編』 24: 103-127.
- 永澤済(2007) 漢語動詞の自他体系の近代から現代への変化 『日本語の研究』 3/4: 17-32.
- 服部匡(2014) 現代日本語の通時変化 『講座日本語コーパス 6 コーパスと日本語学』 朝倉書店.
- 丸山直子(2011) 動詞の格情報 一国語辞書の記述とコーパス— 『日本文学』 107: 227-245 東京女子大学.
- 山田みどり(1980) 「～をそむく」と「～にそむく」 『成蹊国文』 14: 24-85.